

子どもたちとの関わりから学ぶ ～金沢星稜大学によろこそ！～

団体名 ● 金沢市立小坂小学校・2年生 芥川フィールド／代表者名 ● 芥川元喜（人間科学部こども学科准教授）

はじめに

金沢市立小坂小学校とは、担当ゼミナール3年生「こどもフィールド演習」のフィールド校としてもここ数年、継続した連携をさせて頂いている。今回は、担当ゼミナール2年生フィールド基礎演習で、小坂小学校2年生の子どもたちと交流を行った活動を紹介する。

活動内容

内容は、小坂小学校の2年生・生活科の学習で「町たんけん」を行った際に、本学が小坂小学校の校区にあることで、本学に興味・関心を持った子どもたちがいた。そこで、生活科の学びとして、本学に「たんけん」しに来学した子どもたちに大学2年生が本学を案内するという活動である。

10月17日(土)に本学に関心を持った子どもたち8名と引率の保護者1名が来校し、交流活動を行った。

はじめに、学生たちは小坂小学校に子どもたちのお迎えに行き、大学までの引率を行った。小学校教員の校外学習での引率業務は重要な役割の一つである。それを実際に体験することになり、学生は事前に歩くコースの安全面を話し合い、子どもたちのどこに入って学生が歩くのか等も確認した上で、引率した。事後の学生たちの振り返りでは、安全面などいろ



いろ考えて引率したが、子どもたちが予想外の動きをするなど、子どもの引率が予想以上に難しく、教員になるための勉強になったと語る学生が多くいた。本学に来る途中にはG館にも立ち寄り、学生たちは子どもたちにG館の紹介



も行った。

本学に来校し、大学の実際のサーモグラフィーによる体温検知や入校前の消毒など、コロナ禍での大学の感染対策も実際に子どもたちに体験してもらった。本館に案内し、大学という場所を子どもたちに体験してもらうためには広い講義室を体験してもらった方がいいのではと考え、A41教室に案内した。子どもたちは広い講義室に入って「わあ、広い！」など感嘆の声をあげていた。この教室で、互いの自己紹介などを行った。

また、この場では子どもたちからいくつも大学についての質問が出された。小学校2年生に分かりやすく答えられるように学生も大学生の時間割のパワーポイントを作成するなど、工夫をして伝えるように心がけていた。

この質問内容には職員数や学生数など学生だけでは答えられない内容もあったので、本学職員の方々にも質問内容について調べて頂くなどのご支援を頂いた。子どもたちからの質問の一つひとつについて、職員の方々が実際の業務の担当部署に振り分けて頂き、担当の方々が調べ、さらにどのように伝えると子どもたちに分かりやすく伝わるのかを考えて下さった。職員の方々のご支援もあって、子どもたちに大学の正確な情報を伝えることが出来た。こうした温かいご協力も頂き、本学と小坂小学校との連携の土台



がしっかりと築かれていることを筆者自身も実感した。

質問タイムの後には、大学の校舎、キャンパス内を案内した。事前の案内場所の予約や安全の確認など、ここでも大学職員の方々のご支援を頂いた。大学生たちも当日は朝早く





集まり、案内する学内のコースを一巡し、安全の確認を行った。活動後の振り返りにおいても学生は、生活科の学習においても、こうした事前の指導者の安全確認が重要であることが認識できたと述べていた。



見晴らしのよい本館7階テラスに出て、小坂小学校を見つけて子どもたちが「学校が見えるよ!」、「僕のお家も見えるかなあ?」と嬉しそうな歓声を上げていた。夢中で景色を眺めてなかなかテラスから離れられない子どもたちもいて、学生たちもみんな笑顔になり、微笑ましい時間となった。

成果・結果の考察

コロナ禍で大学生と子どもたちの関わりが感染対策として少なくなるなかで、実際の小学校の生活科の学習に関わり、交流し、学べたことは貴重な体験となった。また、この活動後の振り返りにおいても学生たちは、子どもたちの引率の方法や、声の掛け方、また一斉指導の在り方など、実践的な学びとして多くことを学んでいた。

また、学生たちの大きな学びとなったのは、この大学探検における子どもたち一人ひとりの思いを大切にしている大人の姿を体感できたことである。子どもたちの「思い」のこもった質問を小坂小学校の先生が大学に直接届け、またその質問の一つひとつを大学職員の方や大学生が一生懸命に調べ、分かりやすく伝えられるように努める、こうした流れを今回の交流で体感できた。

大学生たちの振り返りで、自身の学びとして、一番多く書かれていたのは「子どもの思いを大切にする

こと」であった。学生たちは、子どもの思いを大切にしている数多くの大人の姿を見て、「子どもの思いを大切にすること」から学びがつくられていくことを実感できたように考える。



この活動後には子どもたちからのお礼状を小坂小学校の先生が届けて下さった。子どもたちからは大学構内を見学できた喜びや、質問内容に答えてくれたお礼、大学探検で学んだことなどが記されており、学生たちもそれを読んで子どもたちの学習に自分たちが役に立てたのなら本当によかったと喜んでいました。

今回の交流を終えて、小学校教員になりたいという思いが強くなった、という学生もいた。コロナ禍でオンラインの交流が中心となる中で、子どもたちの確かな「ぬくもり」を感じ、心が通じ合える温かい交流となった。そして、教員になりたいという学生に「希望」を与える貴重な小学校との連携活動となった。

今回の交流を終えて、小学校教員になりたいという思いが強くなった、という学生もいた。コロナ禍でオンラインの交流が中心となる中で、子どもたちの確かな「ぬくもり」を感じ、心が通じ合える温かい交流となった。そして、教員になりたいという学生に「希望」を与える貴重な小学校との連携活動となった。